

## 生命特許

あなた自身やあなたの大事な人が、遺伝子特許によって死ぬことになったとしたら絶対に許すことはできないでしょう。そんなことは信じられない？！残念ながら本当なのです。

アメリカでは、生命特許によって研究の停止を余儀なくされ、医学実験の妨げや重大な事実や情報の隠蔽によって、医者や患者が厳しい状況に置かれています。生命特許は深刻な病に対する研究を妨げ、その成果を鈍らせています。また、医療費も法外に値上がりしています。乳がんの検査費は\$1,000から\$3,000に上がりました。

なぜでしょう？それは遺伝子特許取得者が一方的に使用料を請求することができるからです。検査費を安く提供できることはないのでしょうか？もちろんできます。しかし、その時は生命特許をもっている人があらゆる手段を使って妨害するでしょう。遺伝子を所有しているのですから。他の誰も検査することはできないのです。自分の乳がん遺伝子を許可なく他の研究者に与えることもできません。自分の体の中に存在しているにも拘らず、その遺伝子は誰かよその人の私的財産とみなされているのです。

このような奇怪な状況が生み出された背景には政府機関の財源不足と人員不足があります。米国特許商標局は何年か前の連邦最高裁判所の裁定を誤解し——遺伝子解説をすすめていた科学者を含め、多くの人に衝撃であった——遺伝子特許を認めてしまいました。

人間はほぼ同じ遺伝子を持っています。動物も同様です。我々の遺伝子構造は地球上においてすべての生命に個々に引き継がれています。雪や鷲、引力に対して特許を持つことはできません。それと同じように遺伝子にも特許を持つべきではないのです。しかしながら今では私たちの体の5分の1の遺伝子は密かに所有されているのです。

結果は悲惨です。通常、私たちは特許と聞くと何か新しいものとの関連を思い浮かべます。それは特許のほとんどは人間が発明したものを対象としているからです。遺伝子は人間が発明したものでありません。それは自然界に所属するものなのです。結果的にこのような生命特許は研究を妨げ、患者の治療を損ないます。

例えば、キャナバン病は遺伝性の神経疾患で3ヶ月の乳幼児から発症が見られ、這うことも歩くこともできず発作に苦しみ、やがて体に麻痺が起こり思春期までには死亡してしまう恐ろしい病気です。以前はこの病気を持って生まれてくる可能性の高い子供の親に対して検査する術はありませんでした。家族は子供と共に遺伝子の確定のために、また、検査の実現のために辛く果てしない検査を心引き裂かれる思いで耐えてきました。世界中のキャナバン病の家族はこの病の原因究明のために体の組織やお金を捧げてきました。

1993年に遺伝子が確定されると、家族はニューヨークホスピタルで要望があれば無料で検査に応じていました。

研究者の雇用主であるマイアミ小児病院研究所はその遺伝子の特許を取得し、以後、無断で特許料を払わずにこの遺伝子検査をすることを一切拒みました。両親たちは遺伝子が特許を取られるなどということが信じられず、もちろんその特許に自分たちの名前も載せていないため、この事実に対して全く手が出せない状況です。

その上、遺伝子の所有者はその遺伝子の突然変異の場合も権利を所有することができます。これらの突然変異は病の標識にもなりうる大事なことなのです。遺伝子特許を実施していない国では、遺伝子検査がアメリカよりもむしろ進んでいるのは、多くの研究所で検査をすることが許されているため、突然変異も多く発見されることによってレベルの高い検査が可能になるからです。

遺伝子特許を擁護する人は、この特許はいつでも小額で使用が可能なのに、世間では大げさに騒ぎすぎるとしています。しかしそれはまったくの偽りです。C型肝炎のゲノム所有者には何百万ドルも研究者から支払いがされています。研究者が費用の安いものを研究対象にしてしまうと聞いても驚きはしません。

しかし、なぜ病気を会社や人が所有する必要があるのでしょうか？その人たちが発明したわけでもないのです。現在、20以上もの人間の病原体が所有されています。乳がん遺伝子BRCAの検査には\$3,000もかかります。そして検査を受けたら、あなたの組織はあなたの許可なしに特許を所有している会社が保存し、研究に使うことができます。

ひどい！あんまりだ！と言ってもどうしようもないのです。

遺伝子特許は悪辣な事実であるということはこれからも変わらないでしょ

う。SARSの脅威が地球上を駆け巡ったとき、特許問題ゆえに医学研究者は研究に対して積極的にはなれませんでした。遺伝子特許が医学の進歩や研究を妨害し、私たちにリスクの高い状況に追い込んでいるという明解な指摘がされていません。

医者は十分な情報さえ手に入れることができません。喘息治療のための薬でさえすべての喘息患者に有効であるわけではないのです。しかし、製造業者は自ら開発に努力することなく、誰かが遺伝子検査によってどれが有効か否かを開発するのを見極めます。

このようなビジネス配慮が優先されることによって、大きな夢が潰されます。何年もの間、個人専用の薬や治療が可能になる時代がくると夢みてきました。遺伝子特許はこの夢を砕きます。

幸いなことに、2人の米国下院議員は、すべてのアメリカ人が解読されたゲノムを十分に活用できるようにしたいとしています。先週の金曜日、カリフォルニアの民主党員ザヴィエル・ベセラとフロリダの共和党員デーブ・ウエルドンは自然界に存在する遺伝子の特許化を阻止するためにゲノム研究と利用法（Genomic Research and Accessibility Act）を立ち上げました。ベセラはこの法案は発明を妨げるものではなく、むしろ促進させるものであると注意深く語った。まったくその通りである。この法案は研究を促進させ、私たちが共有する遺伝子の遺産を私たちの元に戻してくれることでしょう。是非、応援したいものです。

---

マイケル・クライトンは作家であり、最近作“Next”の著者であります。（International Herald Tribune 14 March, 2007）